

3年次で「国語ディベート大会」が開催されました。

◆今号は、国語担当の飯塚先生が書いてくれました。※掲載が遅くなり申し訳ありません(校長)

11月30日(金)4校時に「3年次国語・ディベート大会」を行いました。これまでの授業では、クラスの班ごとで5回のディベートを行ってきました。各クラスには**ディベートの猛者たち**がいて、年次全体で選抜メンバーを募りディベートを行ったら盛り上がるのではないかと考えていました。タイミングよく私が11月の国語のアクティブ・ラーニングの担当になっていたため、この授業を**AL授業**として実施しました。

自薦他薦を問わずにディベートメンバーを募ったところ、ディベートが好きな生徒がたくさん応募してきました。テーマや時間配分などもメンバーたちに決めてもらいました。いよいよディベート本番。準備期間が短かったのにも関わらず、十分な下調べをされていて、データや話す内容などもしっかりと話せていて、**活発な討論**をすることができました。ディベート終了後は審査・判定の時間と、質疑・応答・感想戦の時間を設けました。審判団からもたくさんの手が挙がり、討論の評価や質疑が出ました。審判団も一生懸命メモを取りながら討論をよく聞き、**参加者意識**がとても高いことがわかりました。

今回のディベートのテーマは「**日本において死刑制度はあるべき**」で、多少重いテーマではありましたが、討論メンバーをはじめ、その他の審判団たちも**深く考える**きっかけになったと思います。

■生徒による振り返りのR80■

- そのテーマについての知識や相手の意見を聞いて早く理解することが大切だなと感じた。そのため、**きちんと相手の言っていることを聞き**、素早く理解できるようにしたい。
- やはりクラス選抜だけあって、とても**深いディベート**だったと思う。また、法律や憲法、事例などを根拠とすると説得力があり甚大な効果があると感じた。
- 教室でのディベートよりも**ずっと論理的なもの**と感じた。しかし、傍聴している側にとって(特に賛成側に)立論と受け答えに大きな矛盾を感じ、意見に穴が見受けられた。
- 根拠がしっかりしている発言も多く、筋の通った話し合いで賛成側と反対側でとても**白熱したディベート**になっていたと思う。だから、僕は**見ていてとても楽しかった**。
- 賛成側の論が途中から根拠のないものになってしまっていた。しかし、全体として論が一貫していたので**とても面白いディベート**になっていたと思う。
- 今回のディベートのテーマは、身近でないことだったけど、法などの確実なものを使っていてとてもよかった。また、**相手の情報の抜けなどをつけていてすごい**と思った。
- 実際のインタビューや資料にもとづいた発言も多く、**根拠**がしっかりとっていた。また、相手側の尋問への対応もうまく、**テンポのよいディベート**だったと思った。
- 具体的な根拠よりも相手の意見を崩しながら話を変えた方が有利になると考えられる。また、**意外な観点**から意見を出した方が相手の不意をつけて反論されにくいと考えられる。



◆とてもいい取組です。本校ではディベートや哲学的思考等で「**考える力**」を育てています(^_^)!